

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

今年度は「小中高連携英語教育推進校」の指定を受けていることもあり、ホームページ上では、地域や保護者の皆様だけでなく外部の教育関係者向けとしても取組内容を発信しています。

小中合同モジュール英会話

入学説明会が行われた日。日程の最後に、中学校1・2年と小学校6年による「小中合同モジュール英会話」を行いました。今年度は異学年モジュール英会話を定期的に行ってききましたが、小6・中1・中2という3つの学年がそろって英会話をするのは初めてでした。

こちらの心配をよそに、保護者の方々の参観で多くの目がある中でも、子どもたちは温かいムードの中でしっかりと英会話を楽しんでいました。この集団が来年度の越ヶ浜中の全校生徒です。保護者の方には、生徒たちが前向きに楽しく学習に取り組んでいる雰囲気を感じ取っていただき、安心していただくことができたのではないかと思います。



今年度の取組の成果が小中一貫してどの学年でも見られています。

些細な観察から拾い上げ、広げる ～言語感覚をシェアする～

先日、2年生の授業で、既習知識の確認をするために「ペアになってプリント（右下）の会話を英語にしよう」という場面を設けました。「電車内で乗り合わせた外国人と、偶然行き先が同じ富士山だった」という設定です。

すると、「富士山は初めてです。」というところで、ある生徒は「I have never been to Mt. Fuji.」と伝えていました。また別の生徒は、「だからとっても楽しみです。」というところで、「I'm very excited.」と発していました。

これを聞いたとき、とても素晴らしい感覚だと思い、中間指導ですぐに全体でシェアをしました。文字通り訳せば、「This is my first visit to Mt. Fuji.」「I'm looking forward to seeing it.」となるでしょう。しかし、この場面では「楽しみ」という心情を表現するのに「looking forward to」よりも「I'm excited.」の方がより自然に富士山を目前にした胸の高鳴りを表現できていると思います。

日本語が与えられると、どうしてもそれを文字通り「訳そう」という意識が働きがちです。しかし、この生徒の例が示すように、即興の会話場面ではその日本語にこだわる必要はありません。これに気づくことは、会話力のスキルアップにおける重要な鍵です。日本語の「意味」を正確に伝えようとするあまり、本当に大切な「メッセージ」が伝わらないのでは本末転倒なので、即興の会話ではこのような対応力こそ大切だと思い、耳にしたときはできるだけ全体で取り上げるようにしています。

言葉は、ただ単に「意味を伝える」ためだけの手段ではなく、「メッセージを伝える」ことが最も重要だと思います。額面通りの意味にとらわれず、自分なりに解釈して既習の表現を選んで使っている場面を見ると、とても嬉しい気持ちになります。

日本人 日本は今回が初めてですか？

外国人 そうなんです。

日本人 いつ日本に来たんですか？

外国人 2日前です。関西空港に着いて、大阪を観光しました。そして今から富士山に行きます。

日本人 いいですね。富士山は日本で一番有名な山です。そして、富士山は毎年たくさんの観光客によって訪れられています。私は日本人ですが、富士山は初めてです。だからとても楽しみです。

外国人 本当ですか？ 私は、ずっと長い間富士山を見たいと思っていました。

日本人 なぜですか？

外国人 私はアーティスト（芸術家）で、絵を描きます。何年前にも美術館に言ったとき、日本の浮世絵を見ました。そして浮世絵に影響されました。

日本人 浮世絵は、あなたの国でも有名ですか？

外国人 はい。浮世絵は、世界的に有名ですよ。それ（浮世絵）は、海外のアーティストにも影響を